

私の名前は本谷 佑奈（もとたに ゆな）  
今年の春に結婚して、  
幸せな結婚生活を過ごしている

…はずだったのですが



3ヶ月前夫が海外出張に出向してしまい、  
せっかく引っ越した広い部屋に  
私一人で住んでいます。

## 「ドンドン」

（あら、隣の空き部屋が騒がしい…  
誰か引っ越してくるのかしら）



「初めましてッ！」

隣に引っ越してきましたッ！

大学一年の屋久島 やくしま 大河 たいが ですッ！」

「ど…どうも。」

最近の子って背高あゝ  
筋肉すごっ！



「何か運動されてるのかしら？」

「うっす！ラグビーやっています！」

「そうなの〜」

久しぶりの  
若い子との会話に、  
いつにもなく  
気分が高揚してしまった

「…おっと」

「どうしたの？体調でも悪い？」

大河君が急に腰を引き、  
前屈みになった。

「いや、大丈夫っす、

まだ引越しの荷物の整理残ってるんで、  
そろそろおいとましますッ！」

「え、…ええ頑張ってるね。」

「あゝ」

彼の様子が  
おかしくなった原因が  
わかかってしまった。

「あそこが大きくなってる…」



(私でそういう風になっちゃたのかしら…)

(…)

(だめよ、私にはあの人がいるのに!)



その時私は気づいていなかった

たわいもない会話を続けている最中、  
私の体は久しぶりの優秀なオスの匂いに  
反応していたことを：

トクン♡

「はあ……」

あの子の  
大きかったなあ……



「んっ…」

何だか身体が火照ってる…  
身体が…切ない…





だめ…我慢出来ない…

「どうしてこんなに疼くのお」



「はっ、はふえツ…♡」

き、気持ちいい…♡  
手が止まらない!?

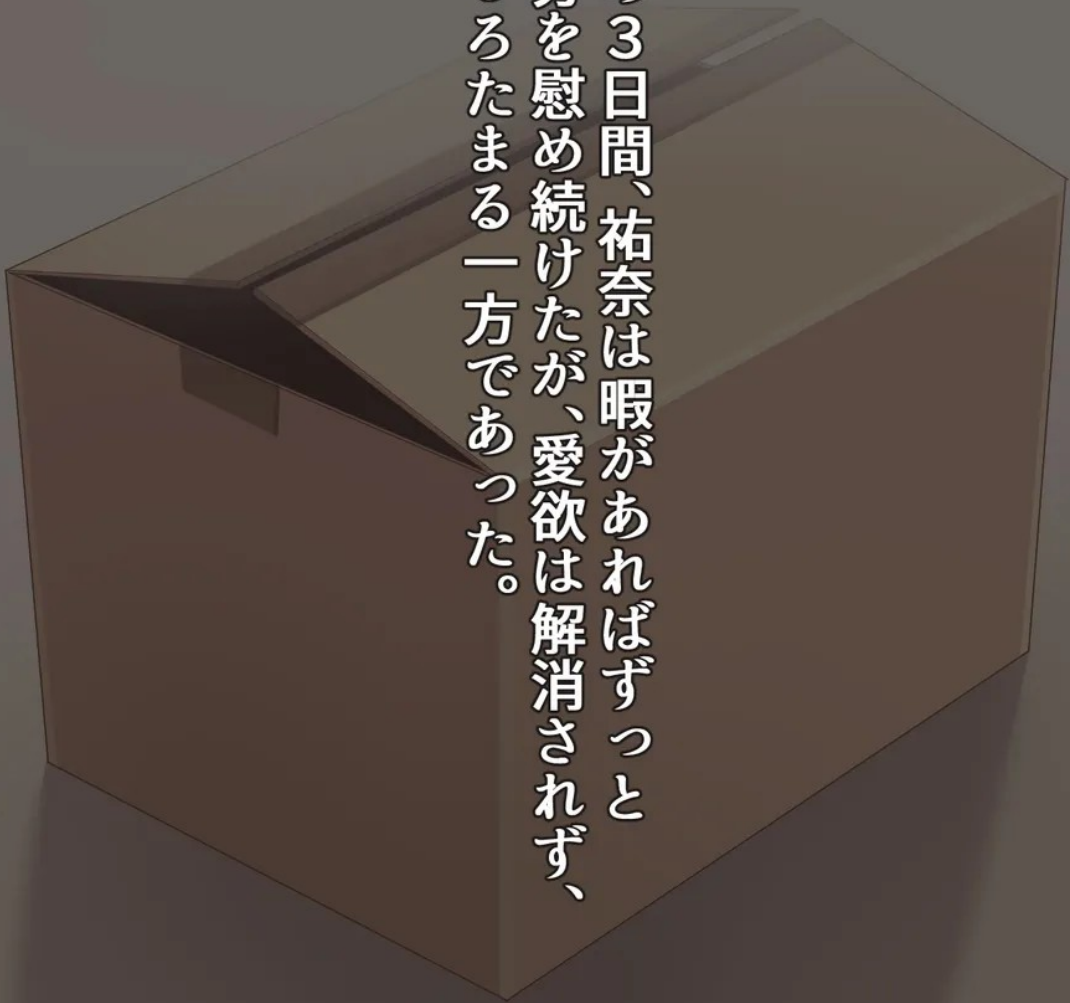
「だ、だめこんなの  
やめないとお…♡」



「んっ…あっ…あっ…あ♡」



「〜ん…ん〜」



この3日間、祐奈は暇があればずっと  
自分を慰め続けたが、愛欲は解消されず、  
むしろたまる一方であった。

どうしよう、買っちゃた…  
オナニーグッツ



でもこの疼きを鎮めるためだもの、  
必要経費よね…



私、遂にこんなものを  
使ってしまったのね…

若い子に劣情して、  
なんて情けない…

でも、あの人を  
裏切らない為だもの  
仕方ない、仕方ないの…





うそツ♡服の上からでも、  
振動がこんなに伝わるなんて…

おー  
~~~~  
ツ  
V

お/き

一番小さなオモチャだからって、  
甘く見ていたわ

ははは...♡  
ははは...♡

くはん

肌に直接あてるのは怖いから、  
まずは下着の上から...





あそこから、  
甘い振動が全身にひろがって……

ヒュー

ふー  
——  
ふー  
♡



軽イキしちやっただあ、  
こ、これ気持ちいいよお…

おやおお

おやおお

ぬ、脱いじやった...

下着の上からでもあんなに気持ち  
良かったのに、

このままクりに当たって振動させたら  
どうなっちゃうのかしら...





こ、これ、強すぎ…  
おまんこ変になっちゃうぅ♡

あ♡  
あ♡  
あ♡  
あ♡  
あ♡

あ♡



入り口に当てても  
しゅごいよお…♡

あゝ♡

あゝ♡  
あゝ♡



「はあ…はあ…」

まさかこんなに  
気持ちいいなんて

これ以上使ったら  
おかしくなっちゃう…

オモチャを使うのは  
これっきりにしないと…



—翌日

(出す燃えるゴミの量が  
こんなに少ないなんて、  
あの人と一緒に暮らす前の  
一人暮らしの時以来ね！)





「佑奈さん！おはようございます！」

後ろから突然、大河が声を掛ける

「大河君…！？お、おはよう」

（うう…流石に気まずいわね…）



「すみません、燃えるゴミって  
どう置いとけばいいんですか？」

「ああ、この蓋を開けて、  
奥の方から置いていくのよ」

「はい！こっちつすね…」



(大河君の髪の毛が、私の乳首にあたって、早朝でブラジャーを着けてないからよけいに…)

「い、いいえ、な、何でもないのよ」

「佑奈さん？どうしました？」

「ひゃあっ♡」

『さわッ』





「ええ、わからないことがあったら  
何でも聞いてね」

「今日はありがとうございまして！」



ふう…あれから  
乳首の勃起が全然収まらない

「こんなこと  
じゃあままでなかったのに…」



敏感になりすぎてる…  
撫でてるだけなのに

ズリ  
ズリ

♪ ああ  
ああ

ズリ  
ズリ





なんて大きさ、  
ほ、ホントに私の乳首なの!!

うん...

うん...





お、おっぱいでこんなになんて  
気持ちよくなるなんて

ハハハ

おっ...

「う、うう…♡」  
このローターを使ったら、きっと…

仕方ないわよ、あの人を裏切らない  
為なんだから…



あうっ...♡♡♡

乳首から  
甘い振動が体中に...♡

あうっ

ごごんなの耐えられ...





まだ全然うずきが収まらない…

あれ、使っちゃおうかしら…



「まずは、ローションを  
垂らして、と…」

「ん♡思ったよりも冷たいわね…」

ん  
ん

トロ～

ゆりゅ♡



「ん、しょ」  
「これで合ってるわよね…」

「じゃ、じゃあ  
スイツチをいれるわよ…」

わ

ポッ





♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

♡♡♡  
♡♡♡

ちくびコロコロ  
舐め回されて、  
力が抜けていく...♡

なんて、なんて  
優しい快樂...



こ、これっ気持ちいい...  
優しすぎるわよ♡

イクっ、いっちやうっ、  
甘い絶頂きちやうっ♡

あーあーあー  
ぐわん  
ぐわん

わんわん

わんわん

わんわん  
わんわん

わんわん  
わんわん



こんなに優しい  
絶頂初めてえ...  
♡

あ、私イッてる...

思えば、  
この時にやめておけばよかった...

この日を境に私の肉欲に  
歯止めがからなくなつた





「んっ…♡」

まずはよくならして…

ヒッ

ヒッ



これでホントに  
気持ちよくなるのかしら

はぁ

はぁ

「ここに付けばいいのよね…」

ぴと…



ひゃあっ

びんびん

おまんこに揺れが響いて  
微かにきもちいい...

でも、それ以上に...

ツ

ン!!



おまんこの周りの筋肉が  
イツてる時の動きしてる...ツ！

おまんこが勝手に  
勘違いしてるっ♡

ああ、  
イッてるッ！

ビクッ!!



「だめ…」

変なイキかたしつちやったから  
全然疼きが収まらない…

くしゃくしゃ

くしゃくしゃ



ここ…これを使うしか、  
ないわよね…

スッ!!

スッ!!

ちゅ  
ちゅ



あ、♡

え!?!なにこれ...

す、吸い付いてくる  
あっこれ、だめかも...

は

ちゅ



クリ吸いすっごい...  
離れてくれないっ

あッ

あッ

まっ  
おまんこピクピクしてきたっ

ピク

ピク

ピク

ピク

ピク



30分後…

1310  
しゃああ♡♡

しゅんっ

しゅんっ



「おもしろいねえ、おもしろいねえ♡  
クリンクリンクリンクリン  
しゃれるの私やアツアツのおお♡」

クリンクリン  
おもしろい♡

「イグア♡おぬイグア♡  
おまんこハカにはなってる♡  
またいっっちゃう♡」

ズクッ  
ズクッ

ズクッ  
ズクッ

うおおお  
あああ  
あああ